

活動成果報告書

平成27年度（第19回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

認知症予防啓発普及事業

～「認知症の早期発見、早期治療に向けて」認知症の簡易テストを用いてスクリーニングした結果から得られたこと～

応募グループ名称及び氏名（グループの場合は代表者名）

勝浦市地域包括支援センター

代表者：田村 良太郎

勤務先：勝浦市役所

所 属：介護健康課 高齢者支援係

所在地：〒299-5292

千葉県勝浦市新官1343番地の1

TEL：0470-73-6615

FAX：0470-73-4283



◇活動方針

夷隅郡市は千葉県内でも、高齢化が進んだ地域にあります。その中でも勝浦市は平成27年4月1日現在の高齢化率は37.8%に上り、老々介護や、高齢者一人世帯が増加し介護に関する課題が顕在化しています。特に、認知症高齢者の相談は毎日のようにあり、対応に追われています。そのほとんどが、認知症の病状が進行し、家族の介護だけではおさまりきれず、介護保険の介護サービスを利用しながら施設入所を待機している状況にあります。

平成18年から認知症に関しての啓発活動を行ってきましたが、市民には「自分だけは認知症にならない」「もの忘れは老化によるもの」という理解不足や認知症に対して偏見がある中で、「認知症を疑う人へどのように声掛けをして病院受診をしてもらえるか」という相談が後を絶ちません。自ら認知症状を自覚して病院受診をすることが理想的ですが、拒否的な考えを持っている人に認知症状を自覚させることは困難なことです。そこで、市民が多く集まる特定健康診査時（以下健診時）にスクリーニングをすることで軽度認知障害の人を早期に発見し、個別に訪問を行い、病院の受診を勧奨することで早期の対応ができると考え活動を始めました。

活動成果報告書

◇活動内容

予め市内の医師会へ相談し、医師の協力を得てから、昨年より健診時に、浦上式簡易スクリーニング検査を用いて、軽度認知障害疑いの人をスクリーニングしました。

健診会場では、「あたまの健康チェック」として、65歳以上の方を対象に実施しました。検査内容は、即時再生・時間の見当識・空間認知・遅延再生の4項目を行い、検査の所要時間は2～3分程度で行う事ができました。

検査を実施した人数は、平成26年度は379名に行い、そのうち77名、平成27年度は628名に行い、そのうち83名を軽度認知障害疑い（合計15点で12点以下が対象）としてスクリーニングをすることができました。その対象者には、職員が個別訪問を行い、検査の説明をしながら対象者の実態把握調査を実施し、生活指導、主治医等への受診勧奨や認知症予防教室への参加意向の確認を行いました。訪問時には、一人暮らしの方以外は、なるべくご家族の方と一緒に、認知症の早期発見と対応の大切さについて説明を受けてもらうようにしました。また、訪問の結果、引き続き支援が必要なケースや主治医と連携を図らなければいけないケースの場合は、直ちに支援を開始し、関係機関と連携をとるようにしています。

結果	2014年	2015年
スクリーニング受診者	379人	628人
男性	156人	282人
女性	223人	346人
12点以下	77人（20.3%）	83人（13.2%）

様

「あたまの健康チェック」の結果報告です

軽度認知障害の疑い
医師による検査をおすすめします。

即時再生			時間見当識				空間認知	遅延再生			合計
a	b	c	年	月	日	曜日	図形	a	b	C	
1	1	1	1	1	1	0	1	2	1	1	11

かかりつけの医師へ 上記の票は先日、先日訪問した際に実施したものです
かかりつけの医師に、一度ご相談することをおすすめします。
ご相談する場合は、この用紙を持参してください。

問い合わせ：
勝浦市役所 介護健康課 高齢者支援係
電話：73-6615、6616

*12点以下の人には

地域包括支援センター
の職員が家庭訪問

- ① 結果の説明
- ② 介護保険の申請を勧める
- ③ かかりつけ医へ相談

活動成果報告書

◇成果

初年度の健診会場では、声掛けをして検査を受けるように促しましたが、今年は、昨年度の約1.7倍の方が自ら進んで検査を受けてくれました。また、対象年齢以外の65歳未満の検査希望者も多数いて、認知症について関心を持っている方が増えたのではと考察します。

個別訪問を行った際の本人と家族の感想ですが、「日ごろからもの忘れが気になっていたが、病院へ連れて行くことが出来なかったので、行くきっかけになった」「結果が数字で表されていると、説得力があってよかった」などの感想を聞くことができました。検査の結果を点数で表し、誰が見てもわかるようにして、本人とその家族にわかりやすく提示をしたことは、「認知症を自分自身の問題として捉える」という意識付けと同時に、知識の普及へつながり、市民に対して認知症への意識を変えるきっかけになりました。また、受診勧奨をしたことで、かかりつけ医から認知症専門医へという連携を図ることができたことや、医療と介護が、今後の認知症対策への取り組みについて共通認識を持つという成果を得ることが出来ました。

◇今後の計画

市民の間には、認知症に対する理解不足や偏見があるため、今後も認知症について正しい理解が図れるように、認知症についての講演会や認知症サポーター養成講座を引き続き行い、現在、健診時のみ実施している認知症スクリーニングテストを相談があればいつでも実施し、認知症の早期発見ができるように取り組んでいきます。また、認知症高齢者やその家族に対して、認知症と診断されたことによる精神的ストレスや、将来への不安などへの支援をチームで支援できるように医療と介護が連携できるネットワークの構築を進めて行きます。